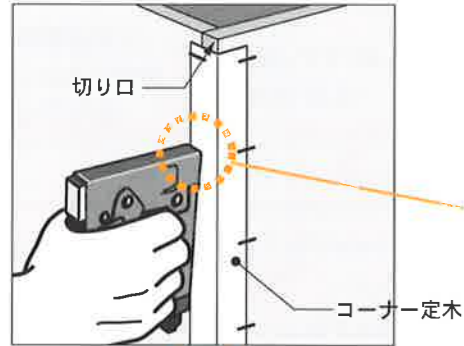


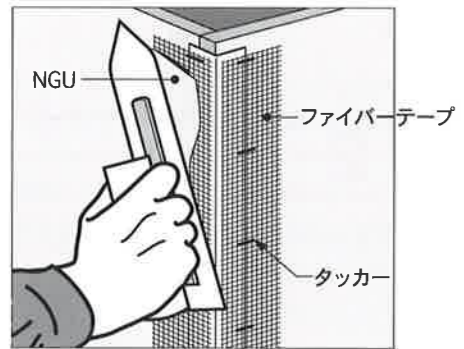
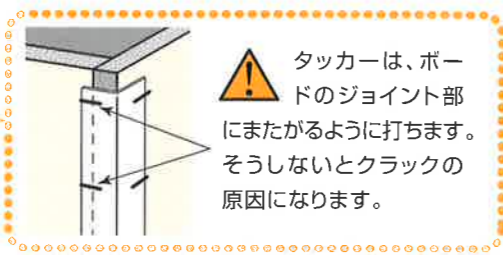
コーナー定木を使う場合の処理方法

コーナー部を保護する時や、ボードの切り口(石こう部分)が露出して取り付けられている場合、基本的にはコーナー定木を使用し、次の要領で施工します。

○ 出隅



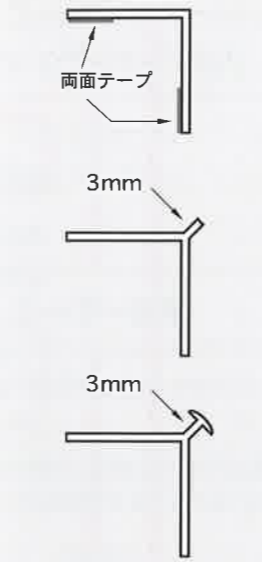
1 出隅にコーナー定木を当て、タッカーで固定してください。



2 左図のようにファイバーテープをコーナー定木の両サイドに貼ってください。
のり付きではないファイバーテープの場合はタッカーで留めてください。

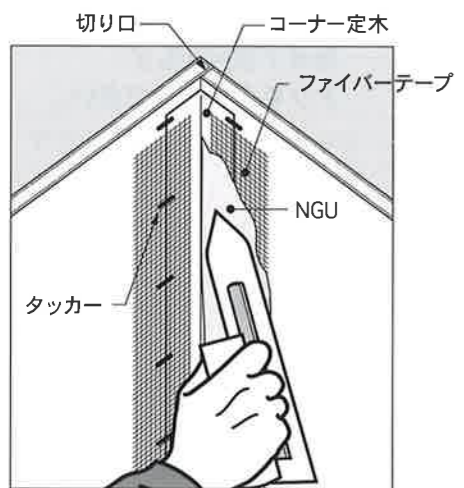
3 取付部分がボード面と平滑になるようNGUでしごき塗りしてください。

出隅用コーナー定木の種類



いろいろな種類がありますので、建材店等にお問い合わせください。

○ 入隅



1 入隅にコーナー定木を当て、タッカーで固定してください。
のり付きのコーナー定木の場合は、タッカー留めは不要です。

2 左図のようにファイバーテープをコーナー定木の両サイドに貼ってください。
のり付きではないファイバーテープの場合はタッカーで留めてください。

3 取付部分がボード面と平滑になるようNGUでしごき塗りしてください。

施工に適さないビニールクロス

ビニールクロスは、塩化ビニールに様々な化学物質をブレンドして作られています。製品ごとに成分内容が異なります。

〈エコ・クィーン〉は、プラスターボード下地や合板下地に貼っている薄手のビニールクロスであれば、その上から施工できますが、例外として以下のようなクロスが存在しますので、ご注意ください。

● 仕上げ面全面にヒビ割れが生じた

『エコ』を謳った製品名のビニールクロスに施工した現場から報告がありました。クロスに問題があるとは考えられないとのことですので、ご注意ください。

● 下塗材〈NGU〉の消石灰分と反応して異臭を出すクロス

下塗り乾燥後に、異臭を放出しつづけるクロスが存在します。ごく一部のビニールクロスに限られますが、外見では見分けが付きません。ビニールクロスに下塗材を施工する場合は、前もってチェックしておくことをおすすめします。(チェック方法→右に記載)

〈粉末タイプ〉の施工には適しません。〈ペースタイプ〉は大丈夫です。



▲ニオイが出たため、下塗りした壁を剥がすことになった現場

※下塗り作業中には、〈NGU〉の樹脂っぽいニオイがしますが、乾くと消えます。『異臭』はそのニオイとは異なり、あえていえば、化粧品が混じっているような感じがするニオイです。仕上げ塗りをして、その消臭効果を期待しても湿気がある限り反応がつつくため、消臭機能が追いつかず異臭は止まりません。

※〈エコ・クィーン〉を施工すると、消臭機能が働いて室内のニオイがなくなります。長雨で湿度が高い日が続いたときには、珪藻土壁の土っぽいニオイがすることがあります。『異臭』ではありませんので、誤解されないようお願いいたします。

● 油で防汚処理されたクロス

汚れを付着しにくくする目的で、クロス表面に防汚液(油)を塗布したお宅があります。ファイバーテープ(のり付き)が接着できないだけでなく、壁材との接着性もありません。中性洗剤を薄め、雑巾で丁寧に拭き取る必要があります。除去しきれない場合は、クロスを剥がして施工してください。

下塗りの目的と厚み

エコ・クィーン専用下塗材〈NGU〉の標準施工厚は『1mm』ですが、厚塗りが必要となる場合があります。下地の状況を見て、適切な施工を行ってください。

下塗りの目的

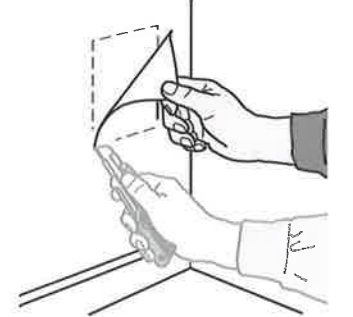
- 粉末タイプ仕上材の長期接着安定
- 施工下地の不陸調整
- 壁下地の補強
- 仕上げ面のテカリ防止・軽減
下塗り面の吸水によって、仕上材の水が表面に浮くのを防ぎます。

※仕上げ塗りは、下塗りした壁が完全に乾いてから行ってください。

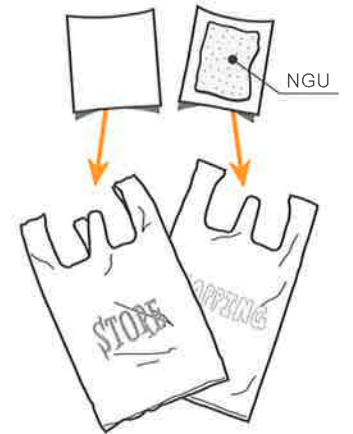
プラスターボード表面はわずかに防水性がありますが吸水します。水分を含むと膨張して反ります(合板も同様)。壁が完全に乾いていない状態で仕上げ塗りをしますと、ボードの伸縮が収まっていないために、クラックが入ったり、小ヒビが生じたりする恐れがあります。

異臭を出すクロスのチェック法

1 壁面のクロスにカッターで軽く切れ目を入れて、2枚剥がし取ります(約15cm角)。



2 クロスの表面を濡れ雑巾で清掃し、1枚には水練りした下塗材〈NGU〉を塗りつけ、乾燥させます。



3 レジ袋を2つ用意し、クロス片を別々に入れて、袋の口を閉じます。

NGU面に少し水分を与えてから入れると判断しやすい。



4 2~3日放置してから、袋の中のニオイを嗅ぎ比べてください。『異臭』は、壁材のニオイとはまったく異なります。



5 ニオイが出なかった場合は、クロスを元の場所に貼り直し、塗りつけた壁材をスクレーパーで剥がしてください。そして、切れ目にはファイバーテープを貼ってください。

ニオイチェックに自信が持てない場合は、クロスを剥がして施工するのが無難です。